

Graduate School of
Human Development
and Environment

神 戸 大 学 大 学 院
人 間 発 達 環 境 学
研 究 科

2027

Contents

研究科長メッセージ	1
人間発達環境学研究科とは	2
カリキュラム	4
人間発達専攻	
心理系	6
表現系	7
行動系	8
教育系	9
人間環境学専攻	
自然環境論／数理情報環境論	10
生活環境論／社会環境論／ 環境先端科学 後期課程の連携講座	11
大学院生の研究活動	12
人間発達環境学研究科における学術交流	14
社会貢献・地域貢献	
大学と社会をつなぐ5つのプラットフォーム	15
施設・サポート	16
アクセス	17



アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)

人間発達環境学研究科は、人間の発達およびそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を有する人材の養成を目指しています。そのため、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。

人間発達環境学研究科の求める学生像

- 1 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
〔求める要素：知識・技能〕
- 2 人間の発達や環境に関する諸問題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
- 3 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕
- 4 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕



研究科
サイト



佐藤春実 教授
人間発達環境学研究科長

近年、AIや情報通信技術をはじめとする科学技術の進化やグローバル化の進展は、経済や社会の仕組みを急速に変化させ、人々のライフスタイル、人間と社会の在り方、国家間の関係などに影響をおよぼし、地球規模の課題をもたらしています。国内を見れば、少子高齢化が加速し、分断や格差が拡大しつつあります。このような状況下では、人間の発達すなわち一人ひとりの人間が潜在的に持つ多様な能力を発現することが妨げられることが危惧されます。こうした状況を踏まえ、私たちは、持続可能な社会の創造を目指し、「人の発達とは何か」「人の発達を支える環境とは何か」という問いと向き合い、より善き生（well-being）の実現を目指した「知」の構築が求められています。

人間発達環境学研究科は、こうした要請に応えるため2007年4月に設立されました。本研究科は人間の「発達」や「環境」のありよう、あるいはあるべき姿に関して卓越した教育研究を実施することをミッションとし、人間発達専攻と人間環境学専攻から成っています。人間発達専攻は、心理系、教育系、表現系、行動系の各学問分野から「人間の発達」に係る諸事象を「個人の創造的発達」と「個人の創造的発達を促す関係性」という二つの視点から総合的に捉え教育研究を行います。また、人間環境学専攻は、自然科学、数理情報科学、生活科学、社会科学の各学問分野において、「人間の発達を支える環境」のありよう、あるいはあるべき姿に関して総合的に教育研究を行います。

人間発達環境学研究科は、一人ひとりの人間のwell-beingの実現を目指し、人間の潜在的能力が開花するプロセスやそれに影響を及ぼす環境について教育研究を行う大学院です。今後の社会において、well-beingが重要な言葉となることは疑う余地はないでしょう。本研究科での教育研究の成果が、期待される未来社会へと導く羅針盤となるものと考えています。みなさんには、柔軟性と受容性をもちながら、持続的かつ包摂的な社会の創成に向けて、ともに歩んでいただきたいと願っています。

人の発達、人間の発達を支える環境



人間発達 環境学研究科とは



【ミッション】

人の発達、人間の発達を支える環境

人間発達環境学研究科では、人の一生を通じた発達と、その発達を支える環境を対象とした教育研究を行います。複雑な諸課題を抱く現代社会において、人がどのように潜在的に持つ能力を開花させるのか、そして、そのためにどのような環境が必要なのかについて、原理的、実践的に研究し、人のよりよい生（well-being）の実現を目指して「知」の構築を目指します。

人間発達環境学研究科は、well-being社会の創造を担う人材を養成します。

- ◎課題解決のために多様な人々と実践的に協働し、リーダーシップを発揮できる人材
- ◎幅広い視野と深い専門的知識を持った高度専門職業人や研究者

【3つの特色】

学際的・総合的

異なる専門分野間で協働し、複雑化する人間の発達や環境に係る課題に対して、多面的・総合的・包括的な研究を推進します。

実践的・応用的

現代社会に生じる様々な問題の解決を目指し、関係者と協働し解決方法を開発するアクションリサーチを実施しています。

国際的

海外の大学との学術交流を促進し、海外の学生、研究者、実践家等と課題を共有しながら調査研究や学術交流を推進します。





人間発達専攻



人間発達専攻は、多様な側面を持つ人間の発達を、総合的な視点から教育研究の対象とします。前期課程においては、人間の発達に関する実践的諸課題の解決やそれを支える新たな公共の創出に貢献する、高度専門職業人の養成を目的とします。後期課程においては、人間の発達に関する高度な専門的学識および創造的な研究能力を持つ自立した研究者、または研究能力に加えて、確かな教育開発力を備えた大学教員の養成を目的とします。さらに、特別な履修コース「臨床心理学コース」と「発達支援1年履修コース」を設置し、実践的職業人も養成します。本専攻では、幅広い問題関心のもとに、心理系、表現系、行動系、教育系という各系の方法および視点の多様性を学習し、自らの専門の新たな位置付けや特徴を修得します。

- 心理系
- 表現系
- 行動系
- 教育系
- 前期課程 臨床心理学コース
- 前期課程1年履修コース（社会人対象）

[取得可能な学位]

修士（学術）、修士（教育学）、博士（学術）、博士（教育学）

[前期課程の特別な履修コース]

臨床心理学コース、1年履修コース（社会人対象）

[取得可能な資格免許]

幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（保健体育、音楽、美術）、高等学校教諭専修免許状（保健体育、音楽、美術）、特別支援学校専修免許状、公認心理師受験資格（※1）（※2）

※1 臨床心理学コースのみ

※2 学部において必要な科目を履修済みか、または受験資格特例の条件を満たす必要があります。

人間環境学専攻



人間環境学専攻は、人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように形成し、維持すればよいのか、という問いを立て、その解明に取り組んでいます。この課題に立ち向かうには、多様な分野からのアプローチが必要です。このため、本専攻では、自然環境、数理情報環境、生活環境、社会環境という各分野の専門知識をもとに、この課題に取り組みます。前期課程が目的とするのは、豊富な専門知識とそれを応用する能力、そして実践行動力を有し、政府、自治体、民間企業、NPOなどの多様な領域で人間環境のいっそうの改善のために活躍できる人材の育成です。後期課程は、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などの養成を目的としています。さらに後期課程においては、より幅広く環境問題にアプローチするため、学外研究機関の研究者で構成される環境先端科学講座を設置しています。

- 自然環境論
- 数理情報環境論
- 生活環境論
- 社会環境論
- 環境先端科学講座（連携講座）（後期課程のみ）

[取得可能な学位]

修士（学術）、修士（理学）、博士（学術）、博士（理学）

[取得可能な資格免許]

中学校教諭専修免許状（理科、数学、家庭、社会）、高等学校教諭専修免許状（理科、数学、家庭、公民）

学ぶ側の立場に立った 能力開発支援型の教育プログラム

本研究科の教育プログラムは、個々の学生が、本研究科在学中のあらゆる機会を通じて身につけていく知識・スキル・能力・資質の獲得と、それらの自己開発力の獲得とを、トータルにプロデュースし、支援していく組織的な取り組みとなっています。

博士課程前期課程

積み上げ方式のカリキュラム構成（専攻専門科目）

専門力量の形成を支援するために、研究課題に応じ、基礎科目（特論Ⅰなど）、展開科目（特論演習など）、および関連科目からなる積み上げ方式のカリキュラムを構成します。また「演習」においては、スキル開発を重視しています。

研究能力の基礎を固める研究の基本的・実践的な手法を修得

「特別研究Ⅰ」において、文献調査法や資料収集法、フィールドワークやアクション・リサーチの技法など、研究に必要な方法論の基本的手法を修得します。さらに「特別研究Ⅱ」において、フィールドワークやワークショップ、プロジェクト研究などを通して、研究の実際的手法を修得します。

ソフトスキルや社会人基礎力の育成

専攻レベル、研究室レベルで実施されている諸活動（セミナー、修士論文発表会など）において、「参加」「運営」といった役割を担うことを通して、ソフトスキル（コミュニケーション、企画力、マネジメント、チームワーク、リーダーシップなど）や社会人基礎力の育成を支援します。

学位取得のプロセス

前期課程2年10月 …… 修士論文題目の提出（16単位以上の修得が必要）

前期課程2年1月 …… 修士論文の提出

前期課程2年2月 …… 最終試験

修了要件

研究科で定められた授業科目を履修して30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査および最終試験に合格しなければならない。

博士課程後期課程

専門力量の深化

さらなる専門力量の深化を目指した高度化科目（特論Ⅱ）を展開します。

研究能力の発展と研究の組織化方法の修得

共通科目「特別研究Ⅲ」において、文献課題やレビュー論文の作成などを通して、国内外の研究状況を把握するための能力発展を目指します。さらに共通科目「特別研究Ⅳ」において、フィールドワークやワークショップ、研究会、プロジェクト研究などの企画・運営に参画し、研究を組織化する方法を修得します。

体系的な博士論文作成指導システムの提供

3年間で円滑に博士論文を作成できるようにするため、複数教員による体系的な論文作成指導システム（基礎論文、予備審査論文など）が準備されています。

実践的な教育力の涵養支援

大学教員を目指す学生に対して、学部の教育実習に相当する科目「教育能力養成演習」の履修により、実践的な教育力の開発を支援します。

学位取得のプロセス

後期課程1年4月末 …… 博士論文構想の提出

後期課程1年2月末 …… 基礎論文の提出

後期課程1年3月 …… 基礎論文の審査

後期課程2年1～3月 …… 予備審査論文構想発表

後期課程3年10月1日まで …… 予備審査論文の提出

後期課程3年10～11月 …… 予備審査論文の審査

後期課程3年1月17日まで …… 博士論文の提出（12単位以上の修得が必要）

後期課程3年2月 …… 博士論文の公開、審査、最終試験

修了要件

研究科で定められた授業科目を履修して14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

主な共通科目

	博士課程前期課程		博士課程後期課程		
	1年次	2年次	1年次	2年次	3年次
共通科目	→				
専門科目	→		→		
特別研究	I	II	III	IV	
修士論文	→				
学位論文	修士論文		博士論文		

前期課程	後期課程
特別研究Ⅰ、Ⅱ ヒューマンコミュニティ創成研究 ESD研究 海外実習 外国語実習	特別研究Ⅲ、Ⅳ 海外実習 外国語実習 教育能力養成演習
グローバルリサーチ演習Ⅰ サイエンスコミュニケーション演習※ インターンシップⅠ※	グローバルリサーチ演習Ⅱ インターンシップⅡ※ ジョブ型研究インターンシップⅡ※

※ 人間環境学専攻のみ

主な専門科目

人間発達専攻



人間環境学専攻



	前期課程	後期課程
心理系	人間発達特論Ⅰ 自己形成特論Ⅰ 発達障害心理学特論Ⅰ 発達障害臨床学特論Ⅰ 芸術療法特論Ⅰ 臨床心理実習Ⅰ 健康行動科学特論Ⅰ 教育発達心理学特論Ⅰ 健康教育学特論Ⅰ 臨床人間関係 認知行動支援特論Ⅰ 心理実践実習Ⅰ、Ⅱ 心理統計法特論 臨床心理面接特論Ⅰ	精神医学特論 イメージ臨床特論 臨床人間関係学特論Ⅰ 臨床心理学特論Ⅰ 臨床児童心理学特論 実験社会心理学特論Ⅰ 教育臨床特論 心理療法 知的障害臨床学特論Ⅰ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 産業・労働分野に関する理論と支援の展開
表現系	[表現創造] 現代絵画特論Ⅰ 舞踊表現特論Ⅰ 身体性・創造性特論Ⅰ デザイン特論Ⅰ [表現文化] ファッション文化特論Ⅰ 音楽文化史特論Ⅰ 音楽民族学特論Ⅰ 感性研究特論Ⅰ メディア情報社会特論Ⅰ 音楽療法特論Ⅰ パフォーマンス科学特論Ⅰ 音楽科教育特論 音楽・音響デザイン特論Ⅰ	[表現創造] 現代絵画特論Ⅱ 舞踊表現特論Ⅱ 身体性・創造性特論Ⅱ デザイン特論Ⅱ 音楽・音響デザイン特論Ⅱ [表現文化] ファッション文化特論Ⅱ 音楽文化史特論Ⅱ 音楽民族学特論Ⅱ 感性研究特論Ⅱ メディア情報社会特論Ⅱ 音楽療法特論Ⅱ パフォーマンス科学特論Ⅱ
行動系	スポーツ文化史特論Ⅰ 身体システム特論Ⅰ 身体コンディショニング特論Ⅰ 運動心理学特論Ⅰ 身体運動処方特論Ⅰ ニューロメカニクス特論Ⅰ 行動適応特論Ⅰ スポーツジェントロジー特論Ⅰ エイジング特論 身体機能調節特論Ⅰ 健康行動加齢特論Ⅰ 応用身体運動科学特論Ⅰ 社会関係適応特論Ⅰ スポーツバイオメカニクス特論 スポーツ指導法特論	スポーツ文化史特論Ⅱ 身体システム特論Ⅱ 身体コンディショニング特論Ⅱ 運動心理学特論Ⅱ 身体運動処方特論Ⅱ ニューロメカニクス特論Ⅱ 行動適応特論Ⅱ スポーツジェントロジー特論Ⅱ エイジング特論Ⅱ 身体機能調節特論Ⅱ 健康行動加齢特論Ⅱ 応用身体運動科学特論Ⅱ 社会関係適応特論Ⅱ 身体運動技術特論 生涯学習支援特論Ⅱ
教育系	[教育科学] 西洋教育史特論Ⅰ 教育制度特論Ⅰ 教師教育学特論Ⅰ 教育方法学特論Ⅰ 社会認識教育内容特論Ⅰ 科学教育原理特論Ⅰ [子ども発達] 児童造形表現特論Ⅰ 乳幼児発達特論Ⅰ 乳幼児教育保育特論Ⅰ 家庭保育特論Ⅰ 数理認識発達特論Ⅰ 児童文学表現特論Ⅰ 子ども音楽表現特論Ⅰ	[発達支援] エンパワメント支援特論Ⅰ ジェンダー文化学習特論Ⅰ 子ども・ヘルシーライフ支援特論Ⅰ 子ども身体運動・表現特論Ⅰ 生涯学習支援特論 社会教育・サービスラーニング支援論 ジェンダー・コミュニティ支援論 インクルーシブ社会支援論 発達支援実地演習Ⅰ、Ⅱ 発達支援技術論 サイエンス・コミュニケーション論
	[教育科学] 西洋教育史特論Ⅱ 教育制度特論Ⅱ 教師教育学特論Ⅱ 教育方法学特論Ⅱ 社会認識教育内容特論Ⅱ 科学教育原理特論Ⅱ [子ども発達] 児童造形表現特論Ⅱ 乳幼児発達特論Ⅱ 乳幼児教育保育特論Ⅱ 家庭保育特論Ⅱ 数理認識発達特論Ⅱ 児童文学表現特論Ⅱ 子ども音楽表現特論Ⅱ [発達支援] エンパワメント支援特論Ⅱ ジェンダー文化学習特論Ⅱ 子ども・ヘルシーライフ支援特論Ⅱ 子ども身体運動・表現特論Ⅱ	

	前期課程	後期課程
自然環境論	自然環境先端科学 環境基礎物質科学 環境基礎生命科学 環境分子生命科学特論 環境光合成科学特論Ⅰ 植物多様性特論Ⅰ 環境適応科学特論Ⅰ 環境バイオテクノロジー特論Ⅰ 環境地球化学特論Ⅰ 環境地質学特論Ⅰ 非線形物理学特論Ⅰ 宇宙環境物理学特論Ⅰ 惑星環境物理学特論Ⅰ 環境有機化学特論Ⅰ 超分子化学特論 市民科学研究特論Ⅰ	環境光合成科学特論Ⅱ 植物多様性特論Ⅱ 環境適応科学特論Ⅱ 環境バイオテクノロジー特論Ⅱ 環境地質学特論Ⅱ 非線形物理学特論Ⅱ 宇宙環境物理学特論Ⅱ 惑星環境物理学特論Ⅱ 環境有機化学特論Ⅱ 生体超分子化学特論 市民科学研究特論Ⅱ
数理情報環境論	統計解析特論 統計推測特論Ⅰ 情報数理方法特論Ⅰ 非線形数理特論Ⅰ 数式処理特論Ⅰ 応用幾何学特論Ⅰ 応用トポロジー特論Ⅰ	応用統計解析特論 統計推測特論Ⅱ 非線形数理特論Ⅱ 数式処理特論Ⅱ 応用幾何学特論Ⅱ 応用トポロジー特論Ⅱ
生活環境論	植物環境学特論Ⅰ 食環境学特論Ⅰ 衣環境学特論Ⅰ 電子応用機能特論Ⅰ 生活環境共生特論Ⅰ ライフスタイル特論Ⅰ 環境経済・政策特論Ⅰ 都市生態特論Ⅰ 健康環境科学特論Ⅰ 里山環境学特論Ⅰ 里山共生実践特論Ⅰ	植物環境学特論Ⅱ 食環境学特論Ⅱ 衣環境学特論Ⅱ 電子応用機能特論Ⅱ 生活環境共生特論Ⅱ ライフスタイル特論Ⅱ 環境経済・政策特論Ⅱ 都市生態特論 健康環境科学特論Ⅱ 里山環境学特論Ⅱ 里山共生実践特論Ⅱ
社会環境論	産業社会構造特論Ⅰ 都市地域構造特論Ⅰ 農村地域構造特論Ⅰ 国際社会構造特論Ⅰ 社会変動特論Ⅰ 労働社会論特論Ⅰ 比較社会規範特論Ⅰ 社会環境思想史特論Ⅰ	産業社会構造特論Ⅱ 都市地域構造特論Ⅱ 農村地域構造特論Ⅱ 国際社会構造特論Ⅱ 労働社会論特論Ⅱ 比較社会規範特論Ⅱ 社会環境思想史特論Ⅱ
環境先端科学		大気環境科学特論 生物地球化学特論 環境ストレス科学特論 生体環境先端計測特論 先端健康医学特論 先端細胞生物学特論

各専攻のQRコードから、詳細な専攻専門科目についてご覧いただけます。

専攻 人間発達

心理系

心身の発達や学習、健康に関わる心理過程およびその障害を研究対象として、発達心理学や臨床心理学など様々な心理学的領域を基盤に実証的に探究します。質問紙調査、実験、観察、インタビューなど多様な研究方法を通して、人間の発達を理論的かつ実践的に探究できる高度な研究者・専門家の養成を目指します。



[担当教員と専門分野]

相澤直樹 准教授 *

臨床心理学、臨床心理検査（投影法）
青年期の対人恐怖傾向と自己愛傾向、ならびにロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について研究しています。

赤木和重 教授

発達障害心理学
自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。

安達友紀 准教授 *

臨床心理学、慢性痛、ペインマネジメント
慢性痛をもつ人のより良い理解と心理支援が研究テーマです。集学的治療、催眠、認知行動療法、準備性、怒り等に関心があります。

柿沼亨祐 助教

社会心理学
他者との関わりの中で、人の認知や行動がどのように変化するのかを明らかにするために、実験法を用いて研究をしています。

加藤佳子 教授 **

健康心理学、健康教育
心の健康に関する人の行動を探り、健康行動の獲得に関連する要因について解明し、well-beingの向上を目指しています。

岸田広平 講師 *

臨床児童心理学、認知行動療法
子どもに対する認知行動療法、保護者へのペアレントトレーニング、学校でのメンタルヘルス予防教育の研究と実践を行っています。

坂本美紀 教授

教育心理学
児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。

谷冬彦 准教授

人格心理学
青年期におけるアイデンティティ（自我同一性）の研究を中心として、広く自己や人格に関する実証的研究をしています。

林創 教授

発達心理学、教育心理学
幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性などの発達に関する研究をしています。

古谷真樹 准教授

睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
心身健康の維持・増進を図るために、睡眠改善に関する基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。

山根隆宏 准教授 *

発達臨床心理学、発達障害児家族支援
発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の中で実証的かつ実践的に研究をしています。

山本健太 助教

障害者心理学、実験心理学、特別支援教育
自閉スペクトラム症者を対象に記憶が行動選択や感情調整に及ぼす影響について実験心理学的手法を用いて研究しています。

* 臨床心理学コースを担当

** 1年履修コースを担当

前期課程 臨床心理学コース

公認心理士資格認定試験の受験資格を取得できるコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めます。



表現系

多様な環境の文脈の中で経験を他者と分かちあい、創造する人間の営みについて複眼的かつ根源的な理解を深めることを目指しています。人間の発達という動的な現象と、それと噛み合う環境との間の複雑な相互関係をふまえた上で、さまざまな経験を他者と共有する人間の表現活動について実証的に探究します。



【担当教員と専門分野】

表現創造

上田 香 准教授

デザイン学、染織・テキスタイルの創作と研究

デザインとは、美しさを伴う問題解決策です。テキスタイルを通して、実践的で未来を見据えたデザインを制作、研究しています。

岸本吉弘 教授

絵画の創作と研究

近代以降の絵画表現を視覚造形的な視点より分析し、それらに関係対称化される「日本」という存在を見つめています。

清水大地 助教

認知科学、身体性科学

魅力的な表現や振る舞いが生み出される過程について、個人・他者・環境との関わり合いに着目し、研究しています。

関 典子 准教授

舞踊学、

コンテンポラリーダンスの創作と研究

舞踊は身体や動きという儂いものを媒体とする芸術です。その現在性にこだわり、表現・研究活動の両面から探究しています。

余田有希子 講師

音楽音響制作

現代の様々な環境やテクノロジーに応じた「音楽・音響」の表現の可能性について、実践と理論の両面から研究しています。

表現文化

大田美佐子 教授

音楽文化史、音楽美学

文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

岡野真裕 准教授

認知科学、パフォーマンス科学

わざの修得・熟達に重要なこととは何か。心・身体・環境の相互作用という切り口から、実験やシミュレーションで調べています。

谷 正人 教授

民族音楽学、イラン伝統音楽

イラン音楽を題材に、即興・オリジナル리티概念を、またサントゥール演奏を通して、音楽演奏に伴う心身の問題を研究しています。

田畑暁生 教授

社会情報学、映像論

新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

野中哲士 教授

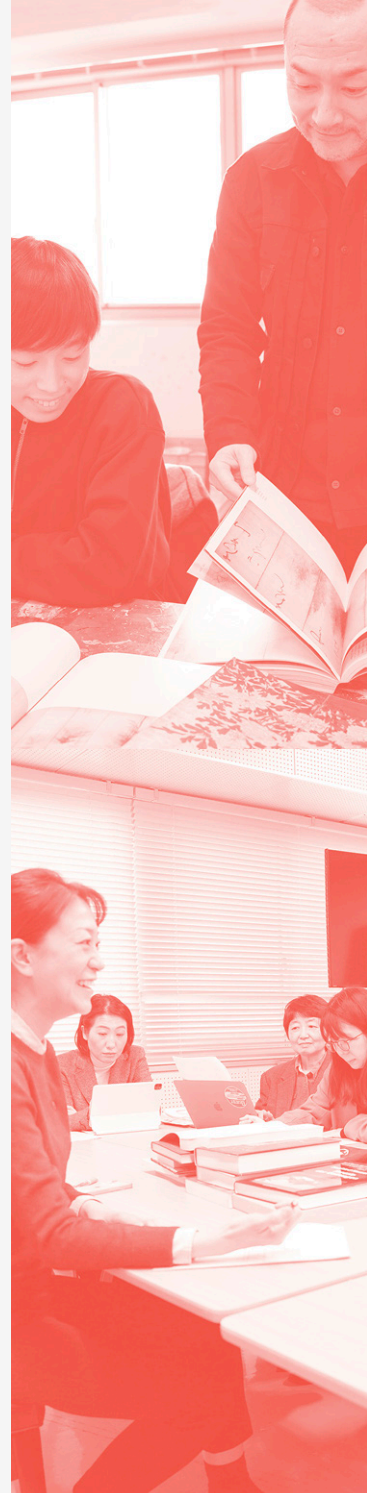
発達科学、生態心理学

わざが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

平芳裕子 教授

表象文化論、ファッション文化論

イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。



行動系

行動系分野では、人が生涯を通して健やかで活動的な生活を送るために、心身の健康、日常生活からレジャー・スポーツにわたる幅広い身体活動、人間行動の発達と加齢、ウェルビーイングに関わる様々な課題について、多角的・学際的観点からアプローチし、人間行動に関する高度な知識と多様な研究手法を修得して、学際的な観点から研究を行います。



【担当教員と専門分野】

秋元 忍 准教授

体育・スポーツ史

19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法により解明します。

石原 暢 准教授

応用身体運動科学

子どもの運動・スポーツに伴う体力向上や体格の変化が、認知機能と学力に与える効果について研究をしています。

打田 篤彦 助教

社会心理学、計算社会科学

「生きやすさ」に主眼を置き、私たちと社会・物理環境の相互作用を多角的に検討し、実際の問題解決への貢献を目指しています。

片桐 恵子 教授 ***

社会心理学、社会老年学

超高齢社会での高齢者の活躍、人間関係、コミュニケーションを中心に、社会心理学的な関心から学際的な研究を行っています。

木伏 紅緒 准教授

身体運動制御、ニューロメカニクス

筋電図や動作解析で、日常・スポーツ動作の入出力関係を捉え、運動パフォーマンスを支える神経筋制御機構を定量的に解明します。

木村 哲也 准教授

身体運動システム論、運動生理学

運動生理学やバイオメカニクスなどの手法から、身体運動の制御メカニズムを明らかにする研究を行っています。

近藤 徳彦 教授 ***

応用生理学、運動生理学、環境生理学

物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から研究を行っています。

佐藤 幸治 教授

運動生理・生化学

運動やサプリメントによる1型・2型糖尿病の新規予防・治療法の開発及び女性アスリートに対する基礎的研究を行っています。

高田 義弘 准教授

運動生理学（身体コンディショニング）

競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディショニングやパフォーマンスへの影響について研究しています。

高見 和至 教授

運動心理学

「運動習慣の心理的プロセス」という、人が運動やスポーツを始める行動の発現から定着、習慣化に至る心理を探求しています。

長ヶ原 誠 教授

スポーツ振興論、国際スポーツ文化論

国内外のスポーツプロモーションに関する実践研究を通じて、活動的なライフスタイルと地域活性化の支援方法を探求しています。

原田 和弘 教授

老年行動学、健康スポーツ論

身体活動・運動を通じた健康づくりの実現に貢献することを目指し、高齢者の身体活動・運動習慣の形成について研究しています。

前田 正登 教授

スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学

スポーツの合理的な動作と技術の習得過程に関する研究、及び、選手の技術レベルに適合するスポーツ用具の研究を行っています。

増本 康平 教授

認知心理学、高齢者心理学

世界で進展する高齢社会の問題解決を目指し、加齢が認知、感情、意思決定に及ぼす影響について研究を実施しています。

*** 2027年3月退職予定

ESD サブコース

持続可能な開発のための教育（ESD=Education for Sustainable Development）*の理論と実践について学びます。本研究科のすべての学生が、主専攻に加えて選択できるコースです。修士生には、「ESD Advanced Practitioner」の認証が付与されます。



*地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全の問題など、人々が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含むすべての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため、国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことを ESD（Education for Sustainable Development）といいます。

教育系

教育および学習等に関わる社会的・個人的営為を対象に教育研究を行い、人間の誕生から高齢期にいたるところおよび諸能力の発達や人間形成に関わる諸要因について理論的、実証的に探究します。



[担当教員と専門分野]

教育科学

Erkki Tapio Lassila 准教授

教師教育学、比較教育学

ナラティブ的手法を用いて、「環境が、教師とその人間関係に及ぼす影響」を分析し、「才能を引き出す教育を推進する教師教育プログラム」を開発しています。

川地亜弥子 教授

教育方法学

算人間の発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、研究しています。特に子どもの生活と言語表現の指導に注目しています。

田中 伸 准教授

市民性教育、社会科教育学

民主社会において、学校・授業は如何に構想できるか。主体的な社会の形成者としての市民を育てる教育のあり方を研究しています。

山口悦司 教授

科学教育

人々の科学の学習をイノベティブに支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。

山下晃一 教授

教育制度論、教育経営学

現代学校組織が直面する課題について、地域との矛盾的關係と、教員の困難（特にベテランの「悲哀」）の2点から研究しています。

渡邊隆信 教授

西洋教育史、教育哲学

20世紀初頭ドイツの「新教育」と呼ばれる教育改革の思想と実践について研究しています。日独の教師教育改革も研究対象です。

子ども発達

岡部恭幸 教授

数理認識論、数学教育

算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理認識についての研究とその知見に基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。

北野幸子 教授

乳幼児教育学、保育学

乳幼児の教育内容や方法、保育者の専門性、その確立や向上を図るシステム（専門組織の活動や政策）について研究しています。

木下孝司 教授 ***

発達心理学

乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に、教示行為の発達や、障害をもつ乳幼児の発達保障について研究しています。

勅使河原 君江 准教授

美術・造形教育

美術作家が取り組んだ美術・造形教育についての理論研究と対話型美術鑑賞教育についての実践研究の両面から研究しています。

中谷奈津子 教授

保育学、家族関係学、子ども家庭支援論

認定こども園等における子育て支援の研究をしています。子どもの最善の利益と家族の幸せに寄与する保育者の役割を考えています。

峯 恭子 准教授

音楽教育

音と身体の応答を手がかりに、わらべうた遊びやリトミック等における即興的音楽表現の教育的意義を研究しています。

村瀬瑠美 助教

身体表現・体育学・舞踊論

子どもの身体による表現と、言葉・運動・遊びの発達との関係や、身体表現におけるイメージと動きの関係について研究しています。

目黒 強 教授

児童文学、国語教育

近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に、歴史社会学的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。

発達支援

福原美苗 准教授 **

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学を用いて、社会に潜む特権性や自明性を疑い、マイノリティの問題について多角的に探究します。

後藤聡美 助教 **

成人学習論、ESD

福祉教育や開発教育、ESD実践の現場で、多様な人々がどのように接触・交差し、変容していくかということを探求しています。

津田英二 教授 **

福祉教育や開発教育、生涯学習論、

障害共生支援論

障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追及する実践的研究を行っています。

** 1年履修コースを担当

*** 2027年3月退職予定

前期課程 1年履修コース(社会人対象)

職業人として高い成果を積み重ねてきた社会人を対象とし、発達支援に関する研究分野において1年間で修士号の取得が可能なコースです。本コースでは、実践に即した研究能力を高め、さらに高度に専門的な職業人としての能力を獲得することを目指します。



専攻 人間環境学

自然環境論

自然環境分野では、自然環境の成り立ちや、環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し、自然科学的立場から人間環境の具体的な諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために、自然環境に関わる物質、生命、地球表層から宇宙にいたるまでの幅広い事柄について、基礎的な理解を深めるとともに、環境汚染、気候変動、生物多様性などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。



【担当教員と専門分野】

蘆田弘樹 教授
光合成科学、生化学、分子生物学、
生物工学
植物などの光合成メカニズムを遺伝子・タンパク質レベルで解明し、光合成的バイオ燃料・物質生産への応用について研究しています。

丑丸敦史 教授
植物生態学、生物多様性科学
花の進化や送粉ネットワークの構造、農業生態系や都市生態系における生物多様性の維持メカニズムについて研究しています。

江原靖人 教授
生物有機化学
生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。

大串健一 教授
古環境学、地質古生物学、水環境学
地球環境の長期変動のメカニズム解明に向けた海洋古環境の研究と兵庫県河川の水循環の研究を行っています。

近江戸 伸子 教授
環境資源植物科学
資源植物を対象に新機能の開発や利用、遺伝特性、環境適応について、ゲノム・染色体・遺伝子の研究を行っています。

黒澤耕介 准教授
惑星科学、宇宙生物学、衝突物理学
初期の太陽系は「天体重爆撃」に晒されました。この時代の惑星、衛星、小惑星の表層初期進化を実験的に調べています。

小谷野由紀 准教授
非線形物理学、アクティブマター
生物のような自発的に動き回るアクティブな物体やその集団について、それらに共通する物理的な性質を研究しています。

佐賀達矢 助教
市民科学、行動生態学、環境教育
ヒトの自然のとらえ方と関わり、特に昆虫食や生態系保全に興味があります。スズメバチ類の行動や生態の研究もしています。

佐藤春実 教授
高分子化学、高分子振動分光学
環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とX線回折法を用いて研究しています。

高見泰興 教授
進化生態学
昆虫の進化、多様化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。

谷 篤史 教授
地球惑星科学、物理化学、物性物理学
物質の性質や光・放射線による物質の変化を分光学を用いて調べることにより、地球や惑星の環境を理解する研究をすすめています。

源 利文 教授
環境生理学、水域生態学、感染症生態学
環境DNAなどを用いて生物の分布、行動、生理を調べています。その応用として感染症の生態学にも取り組んでいます。

数理情報環境論

数理情報環境分野では、数理学に対する高い専門性を身につけ、情報環境の多様化・高度化に対応して情報に関わる諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。そのために、伝統的な数学に根ざしてはいるが、特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理学の諸分野を重視した授業科目を通して、複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。



【担当教員と専門分野】

Emerson Gaw Escolar 准教授
位相的データ解析
データの「形」に着目し、遺伝子発現や企業の技術開発などの複雑な現象に潜む構造を抽出する位相的データ解析を研究しています。

桑村雅隆 教授
応用解析学
物理学、化学、生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

阪本雄二 准教授 ***
数理統計学
株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について、そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。

ぞうい
周怡 助教
医学統計学、生物統計学
医療研究における結論の正確性を高めるため、新しい統計手法を開発しています。データの統合法と偏りの調整法を研究しています。

長坂耕作 准教授
計算機代数、数学教育
パソコンで代数計算（因数分解や方程式の求解等）を効率的に行う方法、誤差を含む場合や数学教育などへの展開について研究しています。

*** 2027年3月退職予定

生活環境論

現代は「流動化」の時代などと呼ばれます。いいかえれば現代とは加速度的に変化し続ける時代でもあります。そこでは日常の生活さえ刻々と姿を変えており、日々新たな課題が生じています。そこで生活環境分野では、私たちの生活環境を形成する生活空間、生活技術、生活資源の3領域について、社会科学、人文科学、自然科学と、文系・理系の両方にわたる研究手法を駆使して、今日的な課題を取り上げ、分析し、問題解決する能力を養成します。



【担当教員と専門分野】

井上真理 教授
衣環境学、感性工学
繊維製品の着心地・使い心地を材料特性から理論的に解析し、環境負荷の低減も考慮した製品設計を提案する研究を行っています。

内山愉太 准教授
都市地域環境学、地理情報科学
国内外の都市地域の社会生態系と相互関係に着目した、多様な主体による包摂的な環境マネジメントに向けた研究を行っています。

大野朋子 准教授
緑地環境学、造園学
人間生活と植物利用について探求することで地域固有の景観形成と創造、都市緑地環境の向上に関する研究をしています。

清野未恵子 准教授
里山環境学、野生動物管理
農山村地域に暮らす多様な生き物の相互作用やそれらと人社会との関わり及び里山保全に関わる人材育成に関する研究を行っています。

佐藤真行 教授
環境経済学、環境政策論
環境や生態系の破壊を引き起こす現代の経済システムの問題と、持続可能な発展という課題について研究しています。

田畑智博 准教授
環境システム工学（土木工学）
私達の生活や経済活動が環境にどのような影響を与えているかを体系的に解析し、持続可能な社会のあり方を提案しています。

福田博也 准教授
生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス
人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。

村山留美子 准教授
環境保健学、環境リスク学
環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

湯浅正洋 准教授
食環境科学
未利用資源の食品としての有用性評価と調理・加工・利用法の提案や、原理に基づいた新しい料理の開発に取り組んでいます。

横内陳正 講師
産業環境保健学
働く人がライフコースを通じて健康でいきいきとキャリアを歩めるような職場・生活環境の解明と実現を目指して研究をしています。

社会環境論

現代社会の諸課題を解明するには、既存の社会諸科学の成果だけでは不十分です。現代社会のあるべき方向を模索するためには、一人ひとりの人間の発達を基軸にすえながら、世界規模で進む歴史的な変動のダイナミズムを明らかにするための新しい科学が求められています。そこで社会環境分野では、経済学、政治学、法律学、歴史学、地理学、社会学、社会思想など従来の社会科学の研究成果を駆使できる基本的な能力とともに、人間が発達する環境としての社会のあり方を探求できる実践的な構想力を育成します。



【担当教員と専門分野】

井口克郎 准教授
社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題
社会保障制度を必要とする人々とそれを成す専門職ら双方の権利が保障される社会保障制度のあり方について研究しています。

太田和宏 教授
途上国政治経済、比較政治
グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。

坂井晃介 准教授
社会学理論、歴史社会学、福祉国家論
現代社会における制度や理念が成立してきた歴史的プロセスを、社会システム理論をベースに理論的かつ経験的に研究しています。

澤宗則 教授 ***
人文地理学、地域社会論、移民社会学
日本の地域社会の変容と問題、移民社会の形成と問題、南アジアの開発について人文地理学の視点から研究を行います。

橋本直人 准教授
社会思想、社会学史
現代社会の根底にある考え方を探るために、社会学史の歴史を研究しています。並行して、思想の計量的研究も進めています。

原将也 准教授
地域研究、環境地理学
おもにアフリカ農村を対象として、社会、経済、政治、自然環境の変化に対応する人びとの暮らしを住民の視点から研究しています。

松山沙織 講師
武力紛争法、国際刑事法
国際法のうち、戦争中のルールがいつ・どこで・誰に適用されるのか、また、その違反である戦争犯罪の裁き方を研究しています。

*** 2027年3月退職予定

環境先端科学 後期課程の連携講座

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学を担う人材を養成します。



【担当教員と専門分野】

斉藤拓也 准教授
大気化学、生物地球化学
オゾン層破壊や温暖化に関わる大気中のガス状有機物について、自然界からの放出量や変動メカニズムを理解するための研究をしています。

高田英昭 准教授
分子細胞生物学、遺伝子工学
遺伝子の機能制御に関わる細胞核内のクロマチンや染色体の構造を可視化することで、老化や疾患発症メカニズムの解明に向けた研究を行っています。

永井秀典 教授
マイクロ流体工学
単一細胞から遺伝子を高速増幅する技術や、イムノアッセイ等の分析技術をオンチップ化したマイクロ分析システムの研究を行っています。

淵脇雄介 准教授
先端健康医学
安全・安心な生活環境を創出するため健康状態を可視化するバイオセンシング技術やレギュラトリーサイエンスも含めた実用化研究を行っています。

大学院生の 研究活動

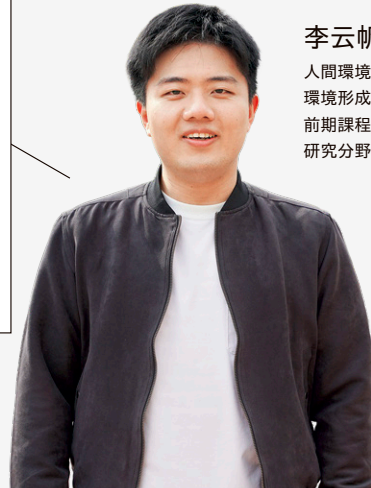
人との関わりの中で感情は
どのように調整されるのか？を
テーマに研究を進めています。



村上萌子
人間発達専攻
臨床心理学コース
前期課程2年
研究分野：障害者心理学

親の機嫌がよければ子の機嫌もよくなるように、感情は自分ひとりだけで完結するものではなく人との関わりの中で調整されます。自分ひとりでは感情のコントロールが難しいときでも友達に励ましてもらうことで気分が良くなることがあります。反対に、自分が相手を励ます立場になることもあります。私はこのような誰かと一緒に行く感情のコントロールについて、自閉スペクトラム症のある方にご協力いただきながら研究を進めています。大学院生活では福祉・医療の施設実習や学会発表などを通じて多様な視点に触れながら、充実した日々を過ごしています。修了後は公認心理師として、目の前の人に丁寧に向き合う支援者になりたいと考えています。

農村部高齢者の主体性と
ウェルビーイングについて、
現場へ足を運んで研究しています。



李云帆
人間環境学専攻
環境形成科学系（社会環境論）
前期課程2年
研究分野：社会学 農村高齢者

私は現在、「農村部高齢者の主体性とウェルビーイング」をテーマに研究しています。理論研究だけでなく、実際に現場へ足を運び、対象者の生活実態を把握することを重視しています。中国での学部時代に経済学を専攻し「社会的な課題を解決したい」という理想を抱き農村を調査しました。本研究科では、そのときの情熱を「研究」に昇華させる方法を学びました。問いの具体化、仮説構築、理論枠組みの適用など、論理的な思考法を鍛えられています。修士論文の執筆は、かつて漠然と抱いていた理想を、確かな論理で裏付ける作業となっています。ここで得た「多角的な視点」と「構造的な分析力」は、研究に限らず、今後どのような道を歩むにしても、人生の道しるべになると確信しています。

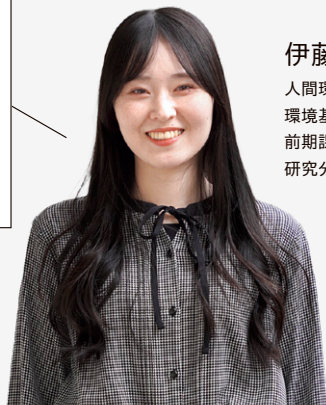
生成AIが人の意思決定に
及ぼす影響について
研究しています。



石橋紗矢香
人間発達専攻
行動系
前期課程2年
研究分野：認知心理学

私たちは1日に約3万5,000回もの決断を繰り返しており、その多さは選択疲れを引き起こします。一方、生成AIの普及により情報収集や比較検討は容易になり、私たちの意思決定の方法が大きく変わりつつあります。しかしAIの使用が、意思決定後の満足感や後悔といった心理面にどのような影響を及ぼすのかは詳しく分かっていません。そこで大学生から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした心理実験をとおして、AIの影響を明らかにする研究を行っています。実験計画を立てる難しさに直面することもあります。先生や仲間と協力してもらいながら日々研究に励んでいます。AIを良きパートナーとして、誰もが満足いく選択ができるよう意思決定に関わる課題の解決に貢献したいです。

生分解性プラスチックの
原料を生産する微生物に
ついて研究しています。



伊藤はな
人間環境学専攻
環境基礎科学系（自然環境論）
前期課程2年
研究分野：分子生物学

私は現在、生分解性プラスチックの原料を生産する微生物を対象とした研究に取り組んでいます。この微生物は、植物などが行う光合成と同様の仕組みで空気中の二酸化炭素を吸収し、その二酸化炭素を用いて作った生分解性プラスチックの原料を細胞内に貯蔵することができます。つまり、「二酸化炭素の削減」と「環境にやさしいプラスチックの普及」の両方に貢献できる生物として、大きな可能性を秘めています。学部3年生の時にGSPに参加し、フィリピンのごみ問題を調査した際、環境中に漂う大量のごみに衝撃を受けたことが、この研究に興味を持ったきっかけです。持続可能な社会の実現への道のりは長いですが、自身の研究が少しでもその一助となるよう、日々研究に励んでいます。



幼児の図形概念理解の発達を深める活動の提案と、その効果の検証に取り組んでいます。

大安沙織

人間発達専攻
教育系(子ども発達)
前期課程2年
研究分野: 数理認識論

私は、幼児がどのように図形概念を理解し、その理解を深めるにはどのような活動がふさわしいのか、ということに興味を持っています。研究では、文献調査で図形概念理解の発達プロセスや鍵となる要素を整理した上で、子どもの図形概念理解を深められそうな活動を提案し、幼稚園等での実践及び効果の検証を行おうと思っています。現在、幼児期に様々な形に豊かに触れる経験を提供したり環境構成を工夫したりすることが求められる一方で、この分野は先行研究や実践例が少なく、より良い活動を提案する基盤となる知見が不足しています。よってこの分野の知見を深め、今後の幼児期の教育の発展に貢献できるような研究をしたいと思っています。

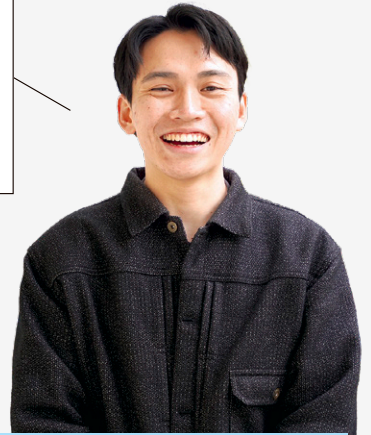


数学の文章問題読解に特化したICT教材の開発に取り組んでいます。

飯田紗礼

人間環境学専攻
環境基礎科学系(数理情報環境論)
前期課程2025年度修了
研究分野: 教育工学、数学教育

数学の文章問題を苦手とする生徒に向け、数学的な読解支援に特化したICT教材の開発に取り組みました。ある生徒の「どこから手をつけていいかわからない」という悩みを知ったことが、この研究の出発点です。文章問題では情報の整理や立式につまずくケースが多いため、図表を用いて状況把握を促す教材の構築を目指しました。研究を進める中で、経験や感覚が先行し、理論的な裏付けが追いつかないこともありましたが、その試行錯誤こそが新たな知見につながりました。また、半年間の交換留学で「人が数学を考えるプロセス」を深く考える機会にも恵まれ、研究の奥深さを実感しました。この研究が、一人でも多くの生徒に問題解決の楽しさを知ってもらうきっかけになれば嬉しいです。



農村の社会環境と耕作放棄リスクを研究しています。

田中亮太郎

人間環境学専攻
環境形成科学系(生活環境論)
前期課程2年
研究分野: 環境経済学

近年、高齢化の進展、産業構造の転換等による後継者不足を主な要因として、耕作放棄地の増加が問題となっています。耕作放棄地の増加は、食料自給率の低下だけでなく、生物多様性の減少や土砂災害の発生リスク増大に繋がります。私は、農村社会の変容、特に地域内外の人々の関わりや行政との協働といった開かれた関係に注目し、耕作放棄地増加の要因を探究しています。研究を進めるうえで、研究テーマの具体化、掘り下げには現在も悩みながらも、本研究科の幅広い分野の先生方と話すことで、一つの専門に捕らわれない、新たなアイデアに触れることができています。本研究科の魅力である学際的な環境で、新しい視点に基づく研究を進めていきます。



作曲家が音楽で何を表現したのか、内在するメッセージの継承のあり方を明らかにしたいです。

中村心咲

人間発達専攻
表現系(表現文化)
前期課程2年
研究分野: 音楽文化史

日本の現代音楽を対象に、作品の歴史的・文化的背景を踏まえつつ、音楽文化のなかでどのようにその可能性を広げられるかを研究しています。特に戦後のピアノ作品に関心を持ち、プログラム研究や資料を通して、受容が提起する包括的な問題を多角的な視点で扱いたいと考えています。これまで演奏者として、楽譜から読み取った情報を音として表現してきました。音楽はその場でしか共有できない表現であるからこそ、作曲家の思想や時代との関わりを、消えていく音だけにとどめるのではなく、言葉として残していきたいと考えようになり、本研究科に進学しました。この研究を通じ、日本の作曲家が音楽で何を表現したのか、作品に内在するメッセージの継承のあり方を明らかにしたいです。

| 学術Weeks



本研究科の国際交流推進の一環として学術Weeksを設置し、海外から多くの研究者を招聘し、研究集会等の学術交流を行っています。本研究科の教員や学外からの研究者のみならず、大学院生も積極的に参加し、領域横断的な学術交流の場となっています。学術Weeksの主な目的は、多くの大学院生が、様々な分野の国際交流を通して、自分の研究を見つめ直し、研究会の企画、運営、発表などの多くのスキルを習得することです。学際的・横断的研究を積極的に進める本研究科において、大学院生が多様な研究領域に接する有意義な機会となっています。

2025年度開催情報

- ◎ 適応的スキル発達をめぐる異分野共創研究セミナー
- ◎ 国際シンポジウム「メタアナリシスによるデータ統合とその問題点」
- ◎ クラシック音楽への親しみと協働的創造を促す「鑑賞+音楽づくり」ワークショップ
- ◎ ライティング教育の未来を拓く — 『ライティング教育の可能性』をふまえて
- ◎ 音楽文化のトランスボーダー vol.9 「カタルーニャーモンポウー静寂の調べ」
- ◎ 虫を愛でる文化から問い直す人間の豊さ
- ◎ + Contact: 言葉を使わないコミュニケーションの可能性
- ◎ アメリカの校舎・教室の変貌と授業時間割の改革 — 子ども中心は実現したか
- ◎ 音楽文化のトランスボーダー vol.10 「剃刀横丁のオペラ／三文オペラ — 一人芝居の可能性に触れる」
- ◎ 障害の重い人たちと文化を味わう「私に人生と言えるものがあるなら — 障害の重い人の生活に学ぶ実践」
- ◎ 史資料から読み解く「学校の世紀」 — 現代教育への示唆

| その他の学術イベント



本研究科では、学術Weeksとして開催するイベントの他にも、それぞれの学問分野が主催して、1年を通して多くの大学院生が参加し、研究集会など開催しています。

2025年度開催情報

- ◎ ヴァレリー・スティール博士講演会「ファッションスタディーズ：その歴史と挑戦」
- ◎ The Phenomenology of Human Dignity and Vulnerability
- ◎ 子どもの認識と教育について — 幼小連携段階
- ◎ 現代美術作家飯川雄大ワークショップ『その場所、その空間を使う』
- ◎ Erik Rietveld 講演会 + 映像作品上映会
- ◎ 測りすぎの時代に意味ある学習評価を行うには — パフォーマンス評価の理論と実践
- ◎ 勝田守一における子どもの発達と教育
- ◎ 水をくんで生きものを調べる — 環境DNA研究の最前線
- ◎ Not just surviving but thriving—on educating and supporting teachers in the current era
- ◎ Learning how to talk, learning about talk: 日本におけるOracy教育実践をふまえて
- ◎ 高校生・私の科学研究発表会2025
- ◎ コーチング入門：その技法と活用方法
- ◎ 支援と尊厳 — 見えない声に耳をすますともに生きるコミュニティのつくり方
- ◎ Traditions and practices of Life Writing in Progressive Education in France and Japan
- ◎ 『ファッションセオリー：ヴァレリー・スティール著作選集』書評会
- ◎ The Educational Value of Records in Teacher Education: Bridging Japan and Spain
- ◎ 繊維リサイクルの最新動向と課題・大学でできること
- ◎ よくわかる心理統計の発展 — 推測統計学の基礎と応用
- ◎ 見えない生き物がわかる？ 環境DNA実験を体験！ ユニバーサル生き物調査2025
- ◎ Life Writing Across Disciplines and Cultures ライフ・ライティング：分野と文化を超えて



ヒューマン・コミュニティ 創成研究センター



<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/hc-center>

ヒューマン・コミュニティ創成研究センターでは、本研究科で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。



心理教育相談室



<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/psycli>

心理教育相談室は、地域住民を対象とする心理相談機関と公認心理師養成に関わる実習機関をかねて、これまで活発な相談援助活動を実施してきました。臨床心理学コース（前期課程）の大学院生が臨床心理士・公認心理師の資格を持つ本研究科教員による指導のもと、継続的な心理相談活動に従事しています。



サイエンスショップ



<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/scishop>

サイエンスショップは、地域社会の市民が科学技術をより身近に感じ、「科学」という営みを楽しむ文化をひろげてゆくことを目指し、市民と専門家の対話と協働の場づくり、市民の様々な科学活動への支援、地域の学校や社会における科学教育に対する支援、小中高生を対象とした将来の理系人材育成事業の推進などの実践的な活動に取り組んでいます。



教育連携推進室



<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/coedu>

教育連携推進室は、乳幼児教育施設、幼稚園等、小学校、中学校、特別支援学校、教育委員会等と連携の上、教育実践研究を推進し、当該研究分野の活性化とその社会還元を通して、教育に係る諸課題の解決に貢献することを目的としています。その目的達成のために、教育連携と、研究開発、拠点形成の3部門を設け、教育機関との連携と協働、教育実践研究の推進を進めています。



アクティブエイジング研究センター



<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/kaarb>

人口の高齢化は解決すべき重要な社会的課題であり、世界保健機関（WHO）が掲げる「アクティブエイジング（活力ある高齢化）」はこの課題解決に向けた指針として注目されています。本センターは、研究科に蓄積された研究成果を踏まえ、この分野における先端的研究の創発とその成果の社会的還元を通じ、高齢化に係る課題解決に資することを目的とし、研究を行っています。様々な領域の研究者がともに行う学際研究や、産官民学の連携による社会実装、海外の研究者とともに国際共同研究を行っており、この分野の研究において、アジアの研究ネットワークのHubとなることを目指しています。



施設・サポート

図書館



神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。鶴甲第2キャンパスには人間科学図書館が設置されています。また、ウェブ上で読める学術雑誌や本のほか、新聞記事、論文情報などを調べられるデータベースも利用することができます。

学内ネットワーク、ICT環境



鶴甲第2キャンパスのほぼすべての教室や共有スペースに、学内無線LANが整備されています。学生の皆さんは、ご自身が所有するPCやタブレットなどでインターネットに接続が可能です。また神戸大学では、学修に必要なソフトウェアのライセンス契約を行っており、学生の皆さんが所有するPCやタブレットで対象のソフトウェアを利用することができます。

ラーニングcommons



ラーニングcommonsとは学内の誰でもが自由に利用できる、創造的学習のためのスペースです。学生の皆さんが多様な人々と交流し、学問の垣根を超えた議論を通じて協同の学びを实践する、自由でオープンな場であることをコンセプトとしています。鶴甲第2キャンパス内には4箇所に設置されており、グループ学習やディスカッションの場として日々活用されています。

主な協定校



神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。鶴甲第2キャンパスには人間科学図書館が設置されています。また、ウェブ上で読める学術雑誌や本のほか、新聞記事、論文情報などを調べられるデータベースも利用することができます。

奨学金



本学には、独立行政法人日本学生支援機構、民間奨学団体・地方公共団体及び神戸大学独自の奨学金などの多様な奨学金制度があります。各奨学金には、卒業後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給付」とがあります。また、奨学金制度以外に、入学金免除、授業料免除（全額免除・半額免除）の制度があります。

教育・学生生活



入試について

学生募集について

学生募集に関する詳細については、学生募集要項をご確認ください。



博士課程
前期課程入試

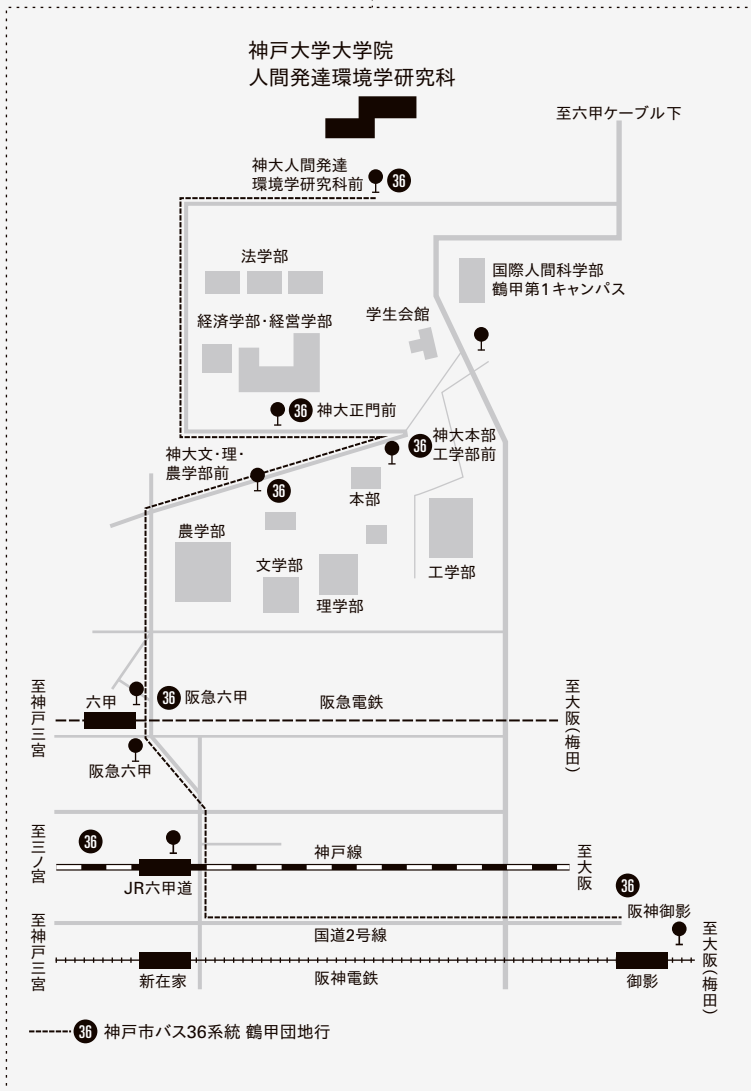
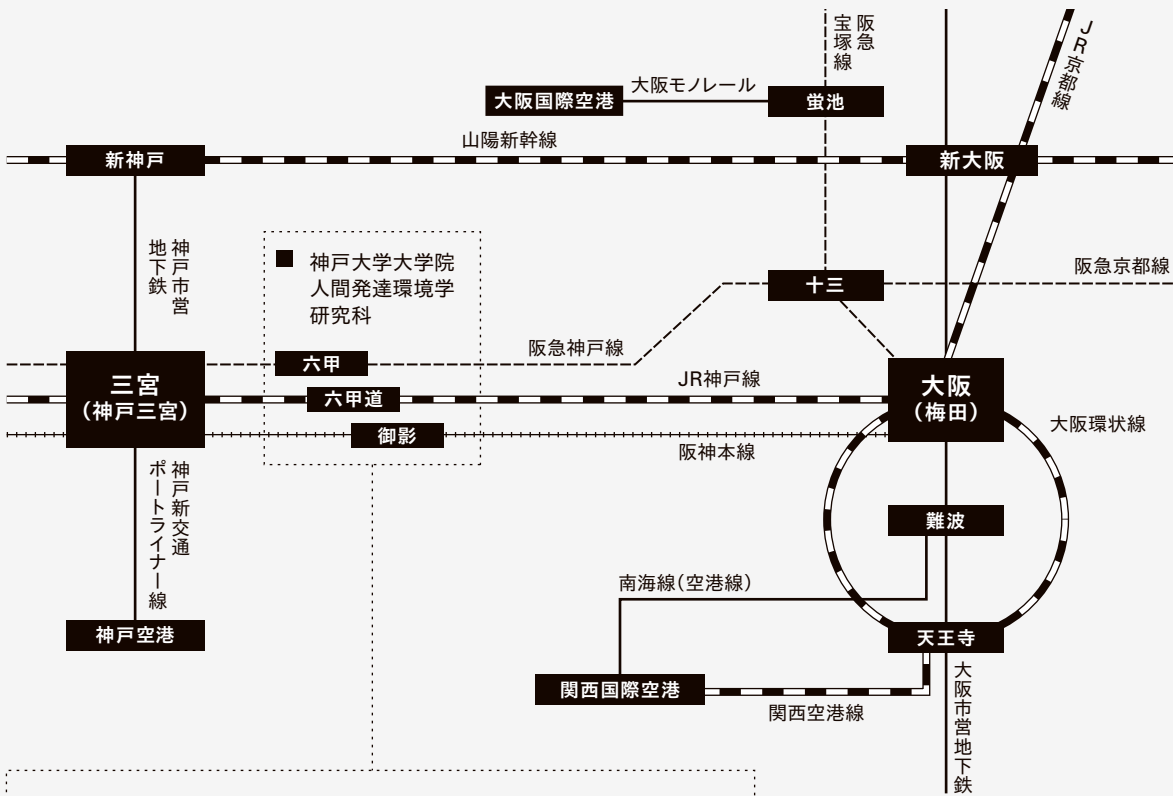


博士課程
後期課程入試

入試に関するお問い合わせ

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教務学生係
 [所在地] 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
 [電話] 078-803-7920、078-803-7924
 [メール] edu-info@h.kobe-u.ac.jp

アクセス



アクセスMAP

最寄りの駅からのアクセス
 最寄りの駅は、阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。神戸市バス36系統「鶴甲団地」行（「鶴甲2丁目止」行）に乗車、「神大人間発達環境学研究科前」で下車。

神戸大学大学院人間発達環境学研究科
 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11
 TEL 078-803-7924 FAX 078-803-7929
<https://www.h.kobe-u.ac.jp>
 2026年4月1日発行

